

第13号の刊行によせて

本年3月14日、北陸新幹線の金沢開業が実現し、金沢城跡で進めていた橋爪門二ノ門等の復元、玉泉院丸庭園の暫定整備も3月7日に完成式を迎え、金沢城の第2期整備事業は無事終えることができました。金沢城の歴史や特徴をできるだけ分かり易く、県民はもとより県外からの観光客に対しても説明していく必要があると思います。また、こうした点を念頭に、金沢城に関する調査・研究の充実をさらに図ってゆかねばなりません。

本号では、研究ノートとして、金沢城跡内の井戸遺構に関する基礎的な調査結果、玉泉院の発給文書や高岡から金沢移徒に関わる書状に関する論考あるいは、今も数多く残る金沢城二ノ丸御殿図の文字記載を比較検討した研究報告を収録することができました。

このほか、初期金沢城の造営体制と割普請について、これまでの調査結果を総合的に咀嚼し大きな視点から考察した論文や、14代藩主慶寧の診断日誌をもとに、藩主の健康状態と政治動向の関連性を追究した池田論文を掲げることもできました。原稿をお寄せいただいた所員はじめ各位に篤く御礼申し上げたいと思います。

最後に、本書が県民の皆様の金沢城に対する高い関心に応え、金沢城と金沢城下町に関する理解の一助となり、近世城郭研究に資することを願って止まないことを申し添え、あいさつに代えさせていただきます。

平成27年3月

石川県金沢城調査研究所
所 長 木越 隆三